

講義ユニット名	衛生学		所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	たなか じゅんこ 田中 純子	所属	疫学・疾病制御学 (内線 5160)	
		メール	jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	たなか じゅんこ 田中 純子	所属	疫学・疾病制御学 (内線 5160)	
		メール	jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義および演習。 実習（木・金曜日）については、クラスの学生を二分し、衛生学と公衆衛生学が分担して行う。 講義終了後、筆記試験。演習レポートは適宜提出。実習終了後、発表会。実習報告書の提出。			
概要	<p>【講義および演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健統計・健康水準・医学研究デザイン等を習得する。 ○疫学の基本を理解し、その疫学方法論を習得する。 ○感染症発生時の疫学的対処を実例に基づいて提示し、応用力を培う。 ○血液事業および輸血用血液の安全性確保のためのスクリーニングを理解する。 ○種々の慢性疾患の病態の把握や制御方法に関する知識を習得する。 ○国内外の疫学研究、臨床研究について学ぶ。 ○医学統計学を学ぶ。○臨床試験について学ぶ <p>【実習】木・金曜日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ毎にテーマ（目的・方法・期待される成果）を設定する。 ○実習発表会を公開で行う。 ○実習報告書を作成する。 			
講義ユニットの 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。 ○ 臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。 ○ 保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。 ○ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。 ○ 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。 ○ データの記述と要約（記述統計を含む）ができる。 ○ 主要な確率分布を説明できる。 ○ 正規分布の母平均の信頼区間を計算できる。 ○ 基本的な仮説検定の構造を説明できる。 ○ 2群間の平均値の差を検定できる（群間の対応のあり、なしを含む）。 ○ パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いを説明できる。 ○ カイ2乗検定法を実施できる。 ○ 一元配置分散分析を利用できる。 ○ 2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。 ○ 線形重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析と交絡調整を概説できる。 ○ 根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。 ○ Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome <PICO (PECO)>を用いた問題の定式化ができる。 ○ 研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システムティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。 ○ データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。 ○ 得られた情報の批判的吟味ができる。 ○ 診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。 ○ 診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを説明できる。 ○ 人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（国際疾病分類 (International Classification of Diseases <ICD>)等）を説明できる。 ○ 平均寿命、健康寿命を説明できる。 ○ 罹患率と発生割合の違いを説明できる。 ○ 疫学とその応用（疫学の概念、疫学指標（リスク比、リスク差、オッズ比）とその比較（年齢調整率、標準化死亡率 (standardized mortality ratio <SMR>)）、パイアス、交絡）を説明できる。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予防医学（一次、二次、三次予防）と健康保持増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導）を概説できる。 ○ 医療における費用対効果分析を説明できる。 ○ 感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。 ○ 予防接種の意義と現状を説明できる。 ○ 世界の保健・医療問題（母子保健、感染症、非感染性疾患 (non-communicable diseases <NCD>)、UHC (Universal Health Coverage)、保健システム（医療制度）、保健関連SDG (Sustainable Development Goals)) を概説できる。 ○ 国際保健・医療協力（国際連合 (United Nations <UN>)、世界保健機関 (World Health Organization <WHO>)、国際労働機関 (International Labour Organization <ILO>)、国連合同エイズ計画 (The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS <UNAIDS>)、世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria <GF>)、GAVI アライアンス (The Global Alliance for Vaccines and Immunization <GAVI>)、国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency <JICA>)、政府開発援助 (Official Development Assistance <ODA>)、非政府組織 (Non-Governmental Organization <NGO>)) を列挙し、概説できる。 ○ 臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験の違いを概説できる。 ○ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して、解決案を提案できる。 ○ ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。 ○ ワクチンの種類と問題点を説明できる。 ○ A型・B型・C型・D型・E型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。 ○ 新生児マスキングを説明できる。 ○ 臨床検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率（事前確率）・検査後確率（事後確率）、尤度比、receiver operating characteristic <ROC>曲線）と判定基準（基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値）を説明できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。実習については全ての出席を試験の受験要件とする。以上の条件を満たさない場合は受験資格を失う。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	<p>MCQ形式と記述形式の併用で試験を行う（配点：MCQ 50点、記述 50点）。 筆記試験における合格基準は60点とする。 衛生学の成績評価は、下記について総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講義及び実習の出席状況。 ○ 筆記試験の成績。 ○ 演習レポート提出状況。 ○ 実習発表の内容、実習報告書の提出。 <p>【重要事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を取得することが必要です。 2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度には衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を再度取得することが必要です。 3. 科目ごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。
履修上の注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 衛生学・公衆衛生学の領域のコアカリキュラムに従った知識・技能の習得にとどまらず、医学研究、臨床研究を行う際に必要な疫学基礎・実践・方法論の講義、演習を通じ、疾病制御をめざした研究の実施方法や思考過程を学ぶこと。 ○ 講義・実習の内容および順序は、変更する場合がありますので留意すること。 ○ 変更の都度、「もみじ」による連絡と、学年代表を通じた連絡をする。 ○ 講義の内容や演習の内容に関する質問は、いつでも受け付けます。
推奨参考書	参考書などは授業の際に提示する。